

新宮山産ぐるーぷ第2206回

冷水山（一等三角点1262m）登山

◇実施日 10月30日（日） 快晴

◇参加者 沖崎吉信、濱野兼吉、大江加予子・徳子、畑林清子、

生熊千満子、山川自知、高階鈴子・美根子、梶野照雄、

榊本真仁、由井洋三（初参加 箕面市） 12名

毎回毎回行仙宿か持経宿、平治宿。山へ行くごとに小屋整備か土木作業と皆さん頑張ってくれているが、皆に共通することは山が好き、山歩きが大好きということだろう。毎回作業を伴った山行が続く中、たまには作業無し的一般山行も、と思っっているがなかなか実現できなかった。



登山開始



西側の安堵山



黒尾山を通過

今、ちょうど紅葉の時期だし、歩く距離も短い冷水山に行くことに決めて、湯川君と2人で登山口までのルートを確認して皆さんに参加を呼び掛けた結果12名の参加となった。

初参加の由井さんは勝浦で前泊し、レンタカーで本宮の集合地へ。冷水山をどう説明しようかと思案中に「冷水山と聞いて私が行かない訳にはいかない」と榊本君が参加の連絡をくれた。

榊本君は、もう30年近く前、60数回にわたってほぼ単独で果無山脈の刈拓きを行い、冷水山登山も縦走も可能にしてくれた果無の大恩人だ。

実施の数日前、橋本梓さんから、田中澄江さんの「花の百名山」に冷水山が入っていて、田中さんの訪問時に玉岡さんが案内したことを教えて頂いた。

集合地の本宮世界遺産センター駐車場も車が多い。コロナ感染者も多いが、それが普通であまり気にしなくなった人も多いようで旅行者も増えて観光地も賑わってきたようだ。一時見なくなった外国の人も数人歩いてきた。

午前9時前には全員が揃い挨拶と紹介、今日の予定などを話し、沖崎、大江、榊本の3車に分乗して出発する。伏拝、三越経由で30km、約1時間の予定だ。20kmほど進み中辺路への分岐を右に取ると果無山脈への登りだ。高度が上がるにつれ紅葉した木々が増えてきた。予定通り1時間で登山口に着く。

紅葉の時期であり、今日の様な快晴で登山者が多いかと思っていたが、一台の駐車車両も無く、今日の山は貸し切りのようだ。

登山準備をしながら周りを見渡すと、西側、南側、東側の眺めは最高だ。

10時10分に歩き始める。今日のコースは高低差の少ない尾根歩きで、植林の無い疎林が続く。冷水山が初めての高階姉妹も、素晴らし、きれいの連続でやや興奮気味だ。



冷水山山頂に着く

本日の参加者

事前の説明で、今日のコースは所要時間やアップダウンが持経・平治間に似ている。と話したが、その通りで、アップダウンは持経・平治間よりも少ない。私も10年以上は来ていないが、今日歩いて果無山脈の魅力を再認識した。

途中で由井さんが下山、午後3時20分の列車で帰宅するので時間に余裕を取っての下山となった。

1時間10分で山頂に着く。山頂には誰もいなかった。全員が揃い、久々の今西流山頂にかける万歳を行い昼食とする。

榊本君が今日のために用意してくれた果無のコース図を皆に配ってくれた。刈拓き当時の苦労話やコースの概略などを聞いた。



山頂からの眺め

倒木を切除

下山

1時間ほど山頂に滞在して下山開始。下山途中の7、8ヶ所で倒木・斜木を処理した。作業無しの山行だったが、日ごろの習性で障害物には自然に手が出てしまう。

榊本君が山頂に設置した説明板には

「かつてこの山のふもとの上湯川仏峠には上湯川小学校がありました。したが、学校統合により昭和45年3月をもって廃校となりました。友と過ごした学び舎から見る冷水山の勇姿は素晴らしく、全校登山で山頂より海を見た時の感動は未だ忘れ得ぬ思い出であります。今日この場所より確認し難いほどに朽ち果て杉山に没しつつある校舎に思いを馳せ、その歴史の証として、「いっとうてん」と親しみ呼んだこの山頂に本文を記します。

平成7年12月17日
統合当時5年生 榊本真仁

(平成18年に再建)

榊本君の冷水山への熱い思いを感じた山行だった。

(記：沖崎)

行動タイム

本宮 09：08→10：07 登山口 10：13→10：56 黒尾山→11：30 冷水山山頂 12：20→13：52 登山口→14：55 本宮